

# コミュニケーション英語Ⅱ 教科書の内容理解を主体的な学びにつなげる プレゼンテーション — Ochako Reuse Project —

英語科 遊馬 智美

2年生のコミュニケーション英語Ⅱにおいて1学期に行った、教科書の内容理解と主体的な学びを促すためのプレゼンテーションを取り入れた授業について紹介した。この授業では全12時間でPROMINENCE English CommunicationⅡ(東京書籍)のLesson2“Come and Visit the Park in the Sky!”を扱った。本文を読み進める中で生徒が実際に自分で考えたり、調べたりして探究的に学びや思考を深めながら英語を使うことができるように展開を工夫した。

教科書で「廃線」を公園に再利用したニューヨークのハイライン(The High Line)について読んだのち、より生徒にとって身近である「廃校」を活用した道の駅について教師がプレゼンテーションを行い、モデルを見せた。生徒は他の廃校活用例を調べ、グループの中で情報を共有した。そして、“If Ochako were closed, how would you reuse the school building?”という生徒自身と関連のある問い与え、お茶高の校舎を自分だったらどのように再利用するかということについて考えさせた。“Ochako Reuse Project”と題し、「お茶高校舎の再利用法」と「他の廃校活用例」について、4人グループでパワーポイントを使って5分間でプレゼンテーションを行うこととした。発表に向けて、文字数を極力減らし、非英語母語話者にも見やすいシンプルなスライドを作成する方法を教え、内容・英語表現・見やすさに関してスライドを添削した。発表原稿も事前に添削し、発表当日には原稿を見ずに、キーワードのみを書いたメモを見るように指示した。発表では、まず生徒は自分たちが調べた廃校活用例を写真を見せながら紹介した。それらを参考に、お茶高を水族館、図書館、美術館、ワクチン接種会場、高齢者施設などとして再利用することを提案した。他にも、教室でアスレチックをするなど実現したら楽しそうなアイデアがたくさんあり、他のグループの発表を聞くのも楽しんでいた。教科書を読んで内容を理解しただけで終わるのではなく、自らが主体的にリサーチをしたり、アイデアを出し合ったりしながら、本文の内容を自分のことと関連させて考え、プレゼンテーションを作りあげる中で、教科書の内容理解がさらに深まった。また、プレゼンテーションは教科書で習った表現を実際に使ってみる機会となった。

研究授業の前半では、教科書本文の扱い方について、後半ではプレゼンテーションの指導について実際の授業の映像を流しながら発表した。研究協議においては、「プレゼンテーションをさせる際にどのようにトピックを選んでいるか」というご質問を

いただいた。また、生徒の発表映像を見て、「生徒がとても楽しそうに発表している姿が印象的だった」という感想をいただいた。今回の発表のように、生徒の知的好奇心が刺激され、ぜひ自分でやってみたい、考えてみたい、調べてみたいと思って夢中になれるようトピックを選ぶようにしている。英語の勉強のために苦しみながら考えるのではなく、興味のある内容にフォーカスして活動を行っていると付随して自然と英語を使っている、授業ではそういう生徒の姿を目指している。

#### 参考文献

遊馬智美 (2021). 「教科書の内容理解を探究的な学びにつなげる授業」『英語教育』2021年11月号 (pp.66-67) 大修館書店.